富山大学附属図書館報　ISSN 1346－3608

書香

2005. 3. 31

No. 45

目　　次

◎ 図書館の興亡
人文学部 助教授 小野直子…… 1

〔諸　報〕
○ 学術コミュニケーションの変革…… 3

〔特　集〕
－ヘルン没後100年とヘルン文庫－
○ 没後100年記念事業を終えて
富山国際大学 教授 高成玲子…… 5
○ 熊本におけるハーン没後百年関連事業の概要
崇城大学 教授 西　忠温…… 8
○ 駐日アイルランド大使が来館……10
○ ヘルン文庫を整備・充実……10

〔案　内〕
○ 本学教員執筆図書案内……11
○ 外国雑誌と電子ジャーナル……12
○ 電子ジャーナル利用説明会を開催……14
○ SCOPUS を導入 ……14
○ 平成17年度新入生館内ツアー案内……15
○ マルチメディアコーナー等を整備……15

〔その他〕
○ 図書館関係会議……16
○ 平成16年度附属図書館運営委員会
委員名簿（平成16年４月現在）……16

図書館の興亡

人文学部助教授　小野直子（おの なおこ）

図書館報に何を書いたらいいのかと思案していた時，マシュー・バトルズ（白須英子訳）『図書館の興亡－古代アレキサンドリアから現代まで－』（草思社，2004年）という本に目が止まった。本書は，ハーヴァード大学のワイドナー図書館・ホートン図書館などで長年司書をつとめてきた著者が描いた図書館の歴史であり，人間にとって図書館とは何かを考えさせるものである。

それによれば，人類初の図書館は，紀元前三千年頃のメソポタミアにすでに存在していた。メソポタミアの図書館が最盛期を迎えたのは紀元前七世紀，アッシリア王国の支配者アッシュールバニパルが首都ニネヴェに図書館を造り，広範囲の文書を収集・整理した。プトレマイオス王朝はアレクサンドリアに学者達を招聘し，図書館を王家の管理下にあるシンクタンクのようなものにした。それは現代の総合大学の原型になった。総合図書館建設の意欲は西欧で萌芽したが，花開いたのは中東だった。八世紀末には，アッバース朝がバグダードを学問の世界的な中心地にした。王室の

「知恵の館」は，ムスリム支配下の人々の知の結晶を翻訳，編集，比較研究するセンターだった。書物，図書館，芸術はアッバース朝の下でそれから約五百年間，モンゴル人の来襲によって帝国が崩壊するまで繁栄が続いた。ルネッサンスに至るまでの数百年の間，ヨーロッパの都市には，ムスリム世界で樹立された「知恵の館」をモデルに大学が出現していた。ルネサンス期には，科学技術の進歩による新しい発想法が印刷術の発達と平行して広がり始め，これがやがて図書館の巨大化に伴う合理的な図書館運営や目録の作成を促した。

記録された文字が集められて図書館として管理・保存される一方で，自然災害や戦争，価値観の変化や管理者の経済的衰退，新たな支配者によるプロパガンダや過去との断絶の強要などによって，図書館は消滅したり破壊されたり再発見されたりしてきた。紀元79年のヴェスヴィオ山の噴火による火山灰で埋まったイタリア南部の都市ヘルクラネウムの「パピルスの館」の悲劇は，長い歴史の中で繰り返されてきた図書館の悲劇である。書物を一箇所に集めるという文化活動が，それらを過ぎ行く歳月の犠牲にしてしまうのである。古代の図書館のほぼすべてが，同じ運命をたどっている。

図書館の歴史には焚書騒動がまつわりついている。秦の始皇帝は大々的な焚書を行ったが，その目的は，秦王朝樹立以前に書かれたすべての中国文学，歴史書，哲学書を破棄することだった。アステカ王国の首都テノチティトランは1521年，スペイン人によって陥落したが，アステカの図書館にあった書物がメキシコの神官や貴族階級にとって大事なものであることを知った征服者達は，アステカの絵文書を徹底的に探し出し，見つかったものはすべて焼き払った。1992年，セルビア民族主義者がボスニア国立・大学図書館に砲撃を開始した。目的は，異なった民族・宗教伝統を持つ人々が，かつて共通の遺産を共有していたことを思い出させる書物，文書，芸術作品などの物的証拠を隠滅するためだった。これらは，かけがえのない知的遺産の喪失の歴史の一部である。

図書館を焼くことが書物破壊の唯一の方法ではない。現在図書館が直面している問題－スペース不足，資金不足－は切実である。人々は本を読まなくなっていると言われるが，出版される書物の数は洪水のように増え続けている。猛烈に増えていく書物が，図書館の限られたスペースに収まりきれるわけがない。図書館は増え続ける蔵書を売却したり，遠方の保存庫に移し替えたり，マイクロ化・デジタル化して現物を処分したりして，たくさんの本を流失させつつある。

2005年１月には，『怒りの葡萄』で知られるアメリカのノーベル賞作家スタインベックの故郷カリフォルニア州サリナスで，財政難のためスタインベック図書館など三つの公共図書館が閉館されることになったというニュースが流れた。全米図書館協会の2003年の調べでは，41州で予算が削減され，約1200館が開館時間短縮や職員削減を迫られており，図書館の「冬の時代」を感じさせる。

このように，時代が移るにつれて，図書館は成長したり変化したり，繁栄したり消滅したりする。それでも図書館の歴史から，書物の言葉には時空を超えて人々を惹き付ける引力があることを改めて実感させられる。

諸　報

学術コミュニケーションの変革

── SPARC，オープンアクセス，機関リポジトリ ──

本誌No.43（2004.3.31）に「学術コミュニケーションの変革への取り組み：SPARC/JAPANと大学図書館」を掲載しましたが，2004年も欧米を中心として大きな動きがありましたのでご紹介します。

1．学術コミュニケーションの現況

学術出版，特に雑誌における商業出版社の寡占状況は，大手出版社のシュプリンガー（Springer）社とクリュワー（Kluwer）社両社の合併に示されているように，現在も進行しておりSTM（Science, Technology, Medicine）の分野においては大手7社で市場の約66％（2003年）を占めています。

国立大学法人等の受入外国雑誌タイトル数の変動については，法人移行2年目を迎える今年4月に明らかになると思われますが，富山大学においても購読予約数で30%程度減少する見込みで，これは全国的な傾向と大きくは異ならないと予想しています。一方，各大学では学内の学術情報基盤の確保・維持を図るため，電子ジャーナル導入・拡大等の取り組みを行っています。国立大学図書館協会でも，出版社協議，コンソーシアム契約によりそれらの取り組みを支援しています。しかし，出版社との全タイトル契約（Big Deal）や購読規模維持などの条件とともに，雑誌価格の上昇は従来どおりであり，安定的・継続的な学術情報提供確保の厳しさは変わっていません。

2．オープンアクセス

北米研究図書館協会（ARL：Association of Research Libraries）は，SPARC（Scholarly Publishing and Academic Resources Coalition）活動において，学術出版市場における競争の創出を目指して商業誌に対する代替誌刊行の支援等を行ってきました。しかし，2004年からオープンアクセス運動の支援を中心とする活動に移ってきました。

「オープンアクセス」にはさまざまな意味付けがありますが，もっとも一般的な定義としては，「査読済みの学術論文に対して，無料でアクセスでき，許諾なしで，閲覧・ダウンロード・再配布・リンク等ができること」とされています。

オープンアクセス（以下，「OA」という。）に対しては，研究者や出版社だけでなく，研究資金の提供者である財団や政府，そして納税者も大きな関心を寄せており，英国下院科学技術委員会の調査報告（「科学出版：誰にでも無料？」），米国下院歳出委員会による国立衛生研究所（NIH）の補助金による研究成果を国立医学図書館（NLM）のPubMed Centralへ搭載するようにとの提案などが相次いで出されています。

いま，OAを実現する2つの道が提唱されています。一つは，OA誌の創出（ゴールド・ロード），もう一つは，セルフ・アーカイビング（グリーン・ロード）です。

3．オープンアクセス誌

OA誌は先の定義に基づく論文を掲載する雑誌を意味しています。ただし，完全OA，部分的なOA，またはEmbargo（刊行後一定の猶予期間をおいてOA）などの形態があります。査読学術雑誌に限定した完全OA誌を選択しているDirectory of Open Access Journals（http://www.doaj.org/）には，さまざまな分野の約1,400誌が掲載され，増加を続けています。

OA誌は，電子ジャーナル出版で安価になっているとは言え，刊行に必要な査読・編集等の出版コストを読者以外のどこから・どのように回収するかが課題の一つです。現在は，著者が投稿料として支払う方法が多くとられており，1論文500

～1,500米ドル相当になっています。商業出版社であるシュプリンガー社も3,000米ドル支払があれば，著者が希望する論文をOAとすること（Open Choice）を認めています。OA誌に対する著者の支払については，大学（図書館）・政府系財団等が会員（会費支払）となることで著者支払額を低くしたり，投稿料を助成金その他から支払うことを認めるなどでOA誌への投稿を支援するケースも出てきています。

OA誌が最善の道として「ゴールド・ロード」と呼ばれている訳ですが，著者支払の方法が持続可能なモデルであるか，資金のない研究者の投稿機会をどう確保するかの問題も指摘されています。

4．セルフ・アーカイビング

次善の道としての「グリーン・ロード」であるセルフ・アーカイビングは，著者がプレプリント（査読前論文）やポストプリント（査読後論文）を，個人サーバ，分野別サーバ（eプリントアーカイブである物理分野arXiv.orgなど），あるいは大学（図書館）が運営するサーバに蓄積し，無償で公開する行為のことです。大学・研究機関が運営するものは機関リポジトリ（Institutional Repository，以下「IR」という。）と呼ばれ，MIT-HPが開発したソフトであるDSpaceが多くの機関で利用されています。また，OA出版社が，IRの受託サービスを開始しています。

一般的に商業雑誌に掲載された論文は，著者から出版社へ著作権移譲されているため，セルフ・アーカイビングは困難でしたが，最近の調査では多くの出版社がすでにこれを許可しているとの結果が出ています。論文等での引用は出版社刊行のものにされることが多く，必ずしも出版社にとってマイナスではないとも言われています。

国立情報学研究所やいくつかの大学において，IRシステムの実現可能性の検証や運用等の準備が進められています。

5．大学図書館とオープンアクセス運動

OAをどう考えるかについては，国内，大学図書館においても議論・検討が始まったばかりであるのが現状です。しかし，OA誌掲載論文の利用動向やインパクト・ファクタの調査等も始められており，積極的な評価も出てきています。大学図書館は，OA運動の動向を学内の研究者の方々へお知らせするとともに，OA誌へのアクセス・ナビゲーションを支援していきます。また，セルフ・アーカイビングは，大学での研究成果の公開=学術情報発信と位置付け，学内の合意を得ながら，学内外の関係機関と連携を図りその実現を進めて行きたいと考えています。

参考文献

1．時実象一，「オープンアクセスの動向」，情報管理，Vol. 47, no.9 (Dec.2004), pp.616-624

2．ポインダー，リチャード，「ポインダーの視点」，Information Today 2回連載

(1) ポインダーの視点：10年を経て
Poynder, Richard, Ten Years After, Information Today, Vol. 21 No. 9 (Oct. 2004)
日本語訳：
http://www.nii.ac.jp/metadata/irp/poynder1/

(2) ポインダーの視点：痛みなくして得るものなし
Poynder, Richard, No Gain Without Pain, Information Today Vol. 21 No. 10 (Nov. 2004)
日本語訳：
http://www.nii.ac.jp/metadata/irp/poynder2/

3．土屋俊，「学術情報流通の動向」，現代の図書館，Vol. 42, no.1, pp.3-30 (2004年9月)
著者版:
http://cogsci.l.chiba-u.ac.jp/~tutiya/Publications/04b.pdf

特　集　ーヘルン没後100年とヘルン文庫ー

没後100年記念事業を終えて

富山国際大学教授　高成玲子（たかなり れいこ）

2004年富山のラフカディオ・ハーン没後100年記念事業は多くの方々のご協力を得て，成功裏に終了することが出来ました。この場を借りて関係各方面に心からお礼を申し上げます。一昨年暮，旧制富山高等学校同窓会，富山大学人文学部同窓会，同理学部同窓会の有志諸氏，富山大学附属図書館，馬場公園の歴史と自然を愛する会，それに富山八雲会とで実行委員会を立ち上げたころは，正直申し上げてどこまで出来るか不安でした。しかし途中から北日本新聞社が創立120周年記念事業の一つとして，没後100年記念事業の主催者に加わってくださったこと，北日本放送からパーシバル・ローエルの写真をお借りできたこと，富山大学附属図書館ヘルン文庫の資料の学外展示の許可が得られたこと，池田記念美術館，松江の小泉八雲記念館の協力があったこと，富山大学，富山国際大学ほか県内外諸機関からさまざまな応援をいただいたこと，しかもインテックをはじめ同窓会やさまざまな個人の方々から資金面で大きなサポートを受けることが出来たことによって，節目の年に相応しい内容の行事を行うことが出来たことをご報告いたします。

先ず，北日本新聞ギャラリーで10月17日から８日間にわたって，引き続いて立山カルデラ博物館で11月13日から３週間にわたって開催した「ハーンとローエル展」では，共に富山に関係のあるラフカディオ・ハーンとパーシバル・ローエルに焦点を当て，富山・北陸の視点から見えてくるものを探ろうとしました。新潟県大和町の池田記念美術館に保管されている「ローエルからハーンに宛てた３通の手紙」を両者の間に据えて，パネル展示を行ったのです。また，この展示でずっと気になっていたある試みを実行しました。

池田記念美術館には，全編にわたって非常に多くの校正が加えられた『日本― 一つの解明』の初校原稿が残されています。本が完成した後，出版社から小泉家に返されたものですが，美しい帯地で装丁された三冊の和綴じ本の形で帙に収められており，遺族によっていかに大切にされてきたかをうかがい知ることができるものです。さらに同館には一葉の第二校断片も保存されていまして，何時の頃からか，ヘルン文庫の手書き原稿を目にするたびに，この手書き原稿（勿論，写真で）と出版社から返送されてきた初校，二校と実際に本になった『日本― 一つの解明』初版本を比較検討できたら，ハーンの推敲の跡をたどれるのでは

「ハーンとローエル展」案内板

ないか，もしそれが出来たらどんなにいいだろうと思うようになりました。しかし，同時にそれはとても私などが手に負えるような仕事ではないとも考えていました。それが今回，思いがけずその一部を一箇所に並べて展示することが出来たのです。

また，「世代を超えて語り継ぎたい八雲の心」作品募集には，思いがけず幅広い年齢層から多くの応募があり，県民の関心の高さに驚きました。恐らくまったく関心のない人もいるけれども，一方で熱烈な八雲ファンも少なくないということなのでしょう。

グランプリに輝いたのは米澤たもつ氏の「全編貫く“常民観”読み継がれる八雲文学」です。エッセイ，評論，創作，詩•短詩の各部門賞から佳作，入選まで受賞作品を順次，富山八雲会のホームページに掲載していますので是非一度ご覧ください。

10月23日アイルランド駐日大使ポドリグ・マーフィ閣下を迎えて開催した記念行事では，ラフカディオ・ハーンの曾孫小泉凡氏にご講演をお願いしました。ハーンの心を出来るだけ深く正確に伝えようとされるあの真摯な姿勢には心打たれるものがあります。ハーンは良き語り部をもったと思います。もう一つ心に残ったのは，南日恒太郎の孫松井玖美氏，小泉氏，それに富山国際大学で私のゼミ生であった平井絢子さんによるフォーラムです。ヘルンの愛蔵書についての話の中で，松井氏は以下のような意味のことをおっしゃったのです。「本とはただ情報を伝えるだけのものではない。本を開くときに立ち上がってくる目に見えない何か，本というものが持っている雰囲気，その本が置かれた佇まい，空気そのものまでが一つの意味を持って迫ってくる。子供の頃，祖父の書斎へ行くと，すでに亡くなっていたはずの祖父の存在が強くリアリティを持って感じられた。•••ライブラリーというものの何か迫ってくる感じ。外国で，例えばプラハのお城の中のライブラリとか•••本が持つ意味とはそうしたものなのではないだろうか。」それを受けて小泉氏が「初めてヘルン文庫を訪れて書き込みを見たとき，それからハーンの白髪らしきものが密かに挟まっていたのを見てしまったとき，やはりそういう時にここへ来なくては分からない，これまで思っていた以上の重みを実感した」とおっしゃった。フォーラムで交わされた一言一言に，この情報化時代にヘルン文庫が持つ本当の意味を再認識させられたような気がして，胸が熱くなるのを覚えました。

そのような数々の感動のうちに一日が終ろうとしていた矢先，最後に忘れられない出来事が起こったのです。記念の諸行事が終って，会場の北日本新聞ホールを出ようとしたときでした。足元がなんだか覚束ない，次の瞬間地震だと気がつきました。時計を見ると6時少し前。私はレセプションの会場の全日空ホテルへと急ぎました。レセプションが始まる直前，突然，ワゴンに並べられたグラスが触れ合っていっせいにガチャガチャと音をたて，天井のシャンデリアが揺れ，柱がみしみしと音をたてたのです。「かなり大きいな」と誰もが思ったはずです。それが中越地震の始まりでしたが，そのことを知ったのは翌日になってからでした。新潟県南魚沼郡大和町の池田記念美術館はまさに今回の震源地と言ってもよい場所に位置していました。幸い美術館関係者に心配したほど大きな被害はなかったと分かってほっとしたのですが，今回遠隔地から参加してくださった方全員が，帰宅するのに苦労されたとうかがっています。

それから2ヵ月後のインドネシア・プーケット大津波は未だ記憶に新しいところです。各国首脳が集まった会議で，シンガポールのリー・シェンロン首相が小泉首相に「稲むらの火」の話について質問されたそうです。あの大津波でハーンの「生神さま」を翻案した「稲むらの火」が再び注目を集め始めています。没後101年，まだまだハーンから目を離すことは出来ないようです。

ラフカディオ・ハーン没後１００年記念事業

平成16年１月　ラフカディオ・ハーン没後１００年記念事業富山実行委員会発足（富山県知事公館にて）

平成16年６月13日　小泉八雲令孫時氏，染村氏と共にヘルン文庫訪問
富山八雲会総会，小泉八雲令孫小泉時氏及び金沢市の染村絢子氏による講演。
小泉氏の演題は「身内から見た小泉八雲と没後１００年」，染村氏の演題は「馬場はる子寄贈のヘルン文庫と南日三兄弟」（富山県民会館にて）

平成16年７月24日　松江より八雲会，ヘルン文庫訪問，富山八雲会と交流会を行う

平成16年８月28日　富山八雲会有志参加で，一泊二日で有峰で星を見る会を開催（有峰森林文化村にて）

平成16年７月　「語り継ぎたい八雲の心」作品募集開始

平成16年９月１日より　「アイルランドにハーンの足跡を訪ねる」10日間の旅行を行う

平成16年10月17日～25日まで　企画展「ハーンとローエル」（北日本新聞ギャラリーにて）

平成16年10月23日　アイルランド駐日大使ポドリグ・マーフィ閣下ヘルン文庫ご訪問
アイルランド駐日大使ポドリグ・マーフィ閣下を迎えて，ラフカディオ・ハーン没後１００年記念式典挙行。
「語り継ぎたい八雲の心」応募作品表彰式，
記念講演：小泉凡氏による「小泉八雲の未来へのまなざし」
フォーラム：松井玖美氏，小泉凡氏，平井絢子氏，司会は高成玲子
映画『怪談』より「黒髪」上映（北日本新聞ホールにて）

平成16年12月５日～12日まで　企画展「ハーンとローエル」（立山カルデラ砂防博物館にて）

平成17年１月21日～２月18日　富山県立高岡高校で県内高校巡回展「ハーンとローエル――神々の国に惹かれた知的巨人たちと富山」

以後，２月23日～３月22日　富山県立福岡高校，４月１日～26日富山県立福野高校，５月９日～27日　富山県立大門高校，６月１日～30日　富山県立富山工業高校，７月５日～29日富山県立富山中部高校，８月22日～９月20日　富山県立富山高校，９月26日～10月20日　富山県立新川みどり野高校，10月25日～11月18日富山県立魚津高校，11月22日～12月20日富山県立上市高校で巡回展の予定

平成17年４月中旬　『没後１００年記念誌』刊行予定

熊本におけるハーン没後百年関連事業の概要

崇城大学教授　西（にし）　忠（ただ）　温（おみ）

平成16年10月22日空路富山市へ飛び，念願の富山大学附属図書館所蔵のヘルン文庫を訪問する機会を得たことを嬉しく思う。これにはNHKテレビ放送でみた文庫研修室でのハーン対談と市内で開催されたハーン没後100年記念講演，フォーラム，企画展が直接の引き金となった。図書館の山田正芳専門員の案内で閲覧させて頂いた同文庫は大正13年（1924年）の設立で，旧制富山高等学校初代校長で英文学者でもあられた南日恒太郎先生の尽力と地元の素封家馬場はる子氏の寄付によるものだと伺った。ハーン旧蔵のこの膨大な原資料は富山から発信できる日本や世界のまさに生きた文化遺産ではないかとの思いを強くした。驚いたことに同郷の偉人徳富蘇峰が昭和10年に来訪した折の写真が展示されていて，熊本での「ハーンの世界」展に出品された八雲レリーフまで見ることが出来た。

60年前の米軍による空爆で富山の街は壊滅的な被害を受けたというが，落ち着いた佇まいのなかで立山連峰の遠望が美しく，駅前を走る電車の姿はどこか熊本の情景に似ていて親しみを覚えた。

旧制五高本館（現在記念館）

翌23日に行われたフォーラム等は周到な準備により，参加者を魅了するに十分であった。なかでも一般公募による入賞グランプリ作品「全編貫く“常民観”読み継がれる八雲文学」（米澤たもつ）は強く印象に残り，推奨に値する秀作であろう。さて，表題の熊本市を中心とした没後百年の取り組みであるが大小合わせて30ほどのイベントの中で圧巻はやはり10月3日の熊本日日新聞，熊本公徳会，市国際交流振興事業団主催による記念シンポジウムといえよう。東京，松江など全国6カ所で開かれた連続シンポにふさわしいものであった。会場には200人ほどの八雲ファンが押しかけた。テーマは東大が「他文化の異化と同化」，大手前大が「西洋人の神道発見」，松江が「チェンバレンとハーン」等であったのに対し，熊本では「教育者ラフカディオ・ハーンと明治の近代化」であった。明治

ハーン没後100年記念行事

7月10日～12日	ハーンゆかりの地・松江探訪旅行
7月11日～20日	八雲イメージ絵画展Ⅰ
7月23日	清和文楽「雪女」本妙寺公演
7月31日	八雲追悼講座①「五高時代のハーン」
8月5日	ヘルンさんの食卓
8月6日～16日	ハーンの世界と怪談屋敷展
	小泉八雲旧居開館時間延長
8月7日	琵琶コンサート「夏の夕べによみがえる耳なし芳一」
8月20日～10月11日	小泉八雲没後百年展
8月21日	夏休み八雲作品朗読会
	宇土雨乞太鼓と三角西港浦島屋祭
8月24日	八雲地蔵まつり（八雲坪井旧居前）
9月4日	八雲追悼講座②「乗り物とハーン」
9月7日～13日	八雲イメージ絵画展Ⅱ
9月25日	八雲レリーフ除幕式・講演・シンポジウム
9月26日	八雲忌・八雲作品朗読会
10月2日	ハーンゆかりの熊本文学散歩
10月3日	小泉八雲没後百年記念国際シンポジウム
	「世界の中のラフカディオ・ハーン」
	熊本会場「教育者ラフカディオ・ハーンと明治の近代化」
10月9日	八雲追悼講座③「ボナー・フェラーズ将軍とラフカディオ・ハーン」

「ハーン通信」№11より（八雲旧居保存会）

20年創立の第五高等学校やハーン，漱石，嘉納などの優れた教師を擁した教育県熊本に視点を据えたテーマ設定と考えられる。

基調講演は武蔵大名誉教授の仙谷晃一氏が「人生の教師ラフカディオ・ハーン」と題して，魂から魂への発信によって若者へ語りかけ，時には示唆を与え時に忠告することで彼は人生の師であったことを強調した。続いて松本健一慶大教授，ハーン研究家関田かをる氏，東大名誉教授平川祐弘氏など6名の講師による国際シンポジウムでは教育者ハーンに迫る各々ユニークな観点から白熱した意見が述べられた。「ハーンが亡くなった1904年は西洋と東洋の出会いの年で，日露戦争の最中であり，国家主義が現われた」，「ハーンの思考の特徴として細部の観察に支えられた全体への示唆が挙げられる」，「熊本の本妙寺でハーンが見たハンセン病患者について何も触れていない。このことは分析の必要がある」，「五高時代のハーンは生徒の実態に合ったテキストの編纂を計画していた」，「ハーンは想像力を伸ばす教育を提言し，授業に熱心で誠実な教師であった」等が指摘された。研究発表では熊本大学の西川盛雄氏が熊本県立図書館に木下順二氏が寄贈していた生徒英作文の添削写真乾板について紹介し，崇城大学の西忠温は明治初期アメリカ留学生で熊本国権党を興した津田静一，五高校長嘉納治五郎とハーンとの関係について新書簡を基に報告した。閉会後，一行はバスで清和村へ移動し新作文楽「雪女」を鑑賞，懇親会では山菜料理を楽しみながら交流を深めた。

8月には鶴屋デパートで「ハーンの世界と怪談屋敷」展が開かれ人気を博した。10月までの2カ月間県立近代文学館で開催の小泉八雲没後百年展は魅力ある企画で注目を集めた。目玉は百枚近い新発掘の上記添削ノートの展示で，英語教師ハーンの面目躍如たるものが随所に見られ，日本の英語教育史上の一級資料である。同時に先年白寿を前に逝かれ，長年五高と熊大で英文学教授として勤められた河原畑正行先生の八雲コレクション展もあり，多くの県民の耳目を集めた。

9月に入り熊大キャンパスで催されたハーンレリーフ除幕式と記念講演，シンポに出席した。旧五高本館入り口近くの一角に英文「極東の将来」記念碑と並んで全身像のレリーフが置かれ，マーフィ駐日アイルランド大使，ギリシャ大使館代表，潮谷熊本県知事，幸山市長，小泉凡氏らが来賓としてテープカットを行った。

熊大黒髪キャンパスに建立されたハーンレリーフ

講演では小泉氏が没後百年にあたってハーンの未来性について，シンポではアラン・ローゼン氏，渡辺京二氏らが21世紀への伝言について論じた。五高記念館でも特別展と連続講演会が持たれた。この事業は大学独自の意義ある企画として評価したい。

夏も深まった旧盆の頃，ハーンの名作「夏の日の夢」の舞台となり復元された旅館「浦島屋」で毎年近隣の中学生と一般人による英語朗読会が開かれ，今年で6回目を迎えた。宇土市三角西港の文化と文学を考える会の主催で，小さく地味な会といえども筆者は大事にしている。ここは先般日本の三大築港として重文の指定を受けた景勝の地である。今回はJR三角線を途中下車して網田地区に伝わるハーンも耳にした宇土の雨乞い太鼓を聞いた。ハーンの心臓の鼓動が直接伝わってくるような感動を覚えた。

終わりに，この熊本での一連のイベントについては各種パンフ，新聞切り抜きなど先日ヘルン文庫宛てお届けした。参照して頂くと有難い。そして昨年熊本八雲会が立ち上がった。遅きに失した感はいなめないが副会長として微力を尽くしたい。

駐日アイルランド大使が来館

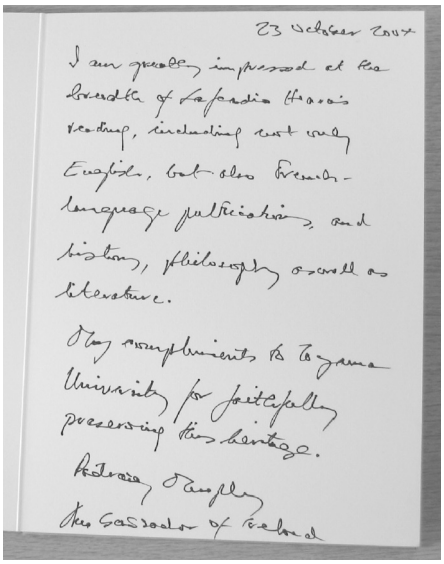
駐日アイルランド大使のポドリグ・マーフィ氏が，去る平成16年10月23日（土）に本学附属図書館「ヘルン文庫」を訪問されました。

「神国日本」原稿を閲覧されるマーフィ大使

大使は，ラフカディオ・ハーン没後100年記念事業実行委員会が主催する記念式典へ出席されるため来県されたもので，併せて「是非富山大学のヘルン文庫を訪れたい」との希望があり実現したものです。

当日は，ハーンの曾孫の小泉　凡氏も来館され，吉田記念式典実行委員長，風巻館長，藤島事務部長等の案内で，蔵書を手にされたりしながら１時間以上にわたり熱心に閲覧されました。

そして，次のような感想を残されました。



23 October 2004

I am greatly impressed at the breadth of Lafcadio Hearn's reading, including not only English, but also French-language publications, and history, philosophy as well as literature.

My compliments to Toyama University for jointly preserving this heritage.

Podraig Murphy
The Ambassador of Ireland

ヘルン文庫を整備・充実

「ヘルン文庫」は，ヘルン閲覧室およびヘルン文庫室からなっており，ヘルン閲覧室にはヘルン関係文献及び旧制富山高等学校初代校長の南日恒太郎氏の蔵書（南日文庫）等約5,200点を配架し，ヘルン文庫室にはラフカディオ・ハーンの旧蔵書2,435冊を所蔵しています。これらヘルン文庫の資料は，主としてヘルン研究者により活用されています。

2004年はラフカディオ・ハーン没後100年にあたったことから，書架及び展示ケースを増設するとともに，松江・熊本等ハーンゆかりの地からも関係資料を収集し，展示資料の充実に努めました。

また，今後は図書館１階のホールにも展示ケースを配置し，ヘルン関係資料やパンフレット等を展示し利用者に広くＰＲするとともに，ヘルン関係文献データベースの充実を図っていく予定です。多くの方々が関心を持たれ，ヘルン文庫を利用されることを期待しています。

展示資料等が整備されたヘルン閲覧室

案　内

本学教員執筆図書案内

附属図書館では，本学教員が執筆した図書を積極的に収集しています。それらの図書は本館１階の専用コーナーに配架され，学生の皆さん等によって，有効に利用されています。新たに本を出版される際には，是非，図書館に２部ご恵贈くださるようお願いします。

ご寄贈いただいた図書は，『書香』及び附属図書館ホームページで紹介します。今回は平成16年10月以降の受入分です。

■総　記

GUIDEBOOK 研究の方法 / 日本科学者会議編リベルタ出版　2004年（002.7/N57k/Gu）
執筆者：**金子幸代**（人文学部）ほか

■哲　学

臨床心理アセスメントハンドブック / **村上宣寛**（教育学部）ほか著
北大路書房　2004年（146.3/M94/Ri）

■歴　史

馬賊で見る「満洲」：張作霖のあゆんだ道 / **澁谷由里**（人文学部）著
講談社　2004年（222.5/Sh6/Ba）

空間のイギリス史 / 川北稔，藤川隆男編
山川出版社　2005年（233/K17/Ku）
執筆者：**大西吉之**（経済学部）ほか

■社会科学

コンプライアンスと内部告発 / 大内伸哉責任編集
日本労務研究会　2004年（335.15/Ou2/Co）
執筆者：**竹地潔**（経済学部）ほか

「福祉コミュニティ」と地域社会 / **平川毅彦**（教育学部）著
世界思想社　2004年　（369/H62/Fu）

青少年教育施設の経営改革 / **森豊吉，阿部豊**著
日常出版　2003年　（379.3/M82/Se）
推薦の言葉：近藤昌彦（理事）

■芸　術

回顧録：大瀧先生を偲ぶ29の思い出 / 大瀧直平遺作展実行委員会
大瀧直平遺作展実行委員会　2004年（710.28/Ot/Ot）
大瀧直平氏は元教育学部教授

大瀧直平のすべて：自然と肉体の融合 / **大瀧敏夫**ほか編
大瀧直平図録製作委員会　2004年（710.87/Ot/Ot）
執筆者：中谷唯一（元教育学部）ほか

■文　学

森鷗外研究　10 / 谷沢永一，山崎國紀編
和泉書院　2004年（910.268/M82/Iz=10）
執筆者：**金子幸代**（人文学部）ほか

外国雑誌と電子ジャーナル

外国雑誌は図書と共に教育研究を進めるうえで重要な役割を担ってきましたが，毎年タイトル価格が値上がりするため購読中止を余儀なくされ，それが更なる値上げを招くという悪循環を生み出す結果となっています。その状況を示したのが図１です。国内国公立大学の外国雑誌の購入費・タイトル数の推移を表したもので，購入タイトル数は1990年頃をピークに減少を続け，購入金額は2000年をピークとして減少に転じました。

そして，本学欧文タイトルの前金契約金額とタイトル数の推移を示したものが図２で，1998年から2005年の間について集計したものです。2005年はあくまで実績を基に見込んだ数字を計上したものです。タイトル数は2000年から減少を続けており，契約金額は2002，2003年に上昇に転じていますが，これは2001年まで円安傾向で推移した為替が円高に変わったことによるものとみられ，2004年からは高額タイトルのキャンセルが影響し急激

図１

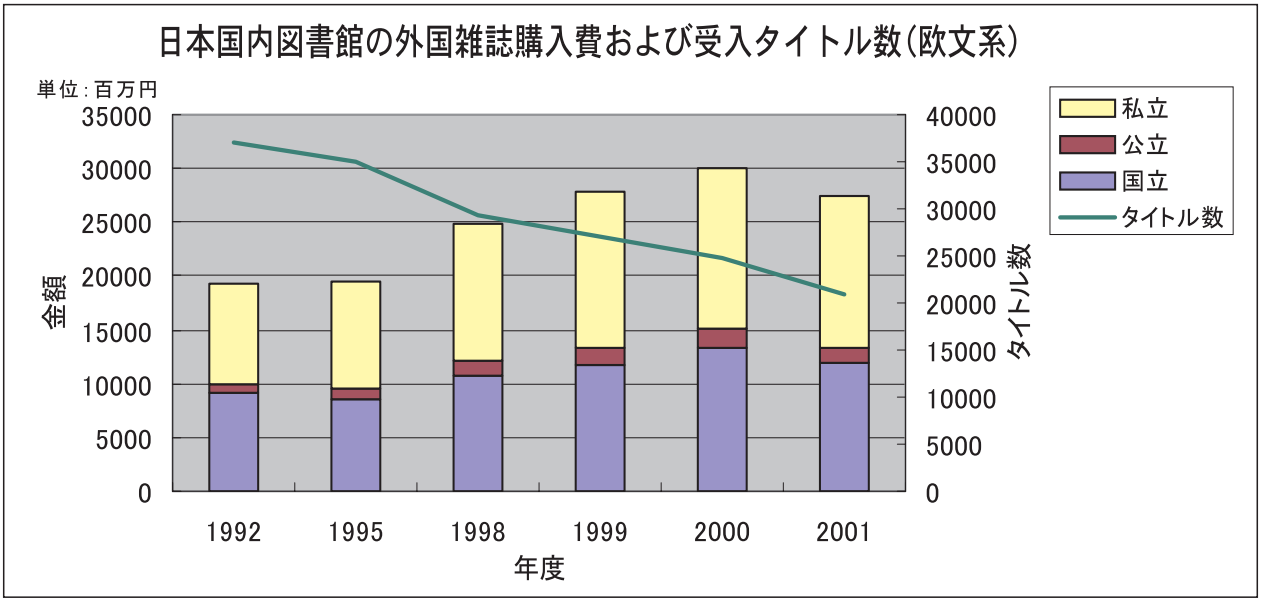
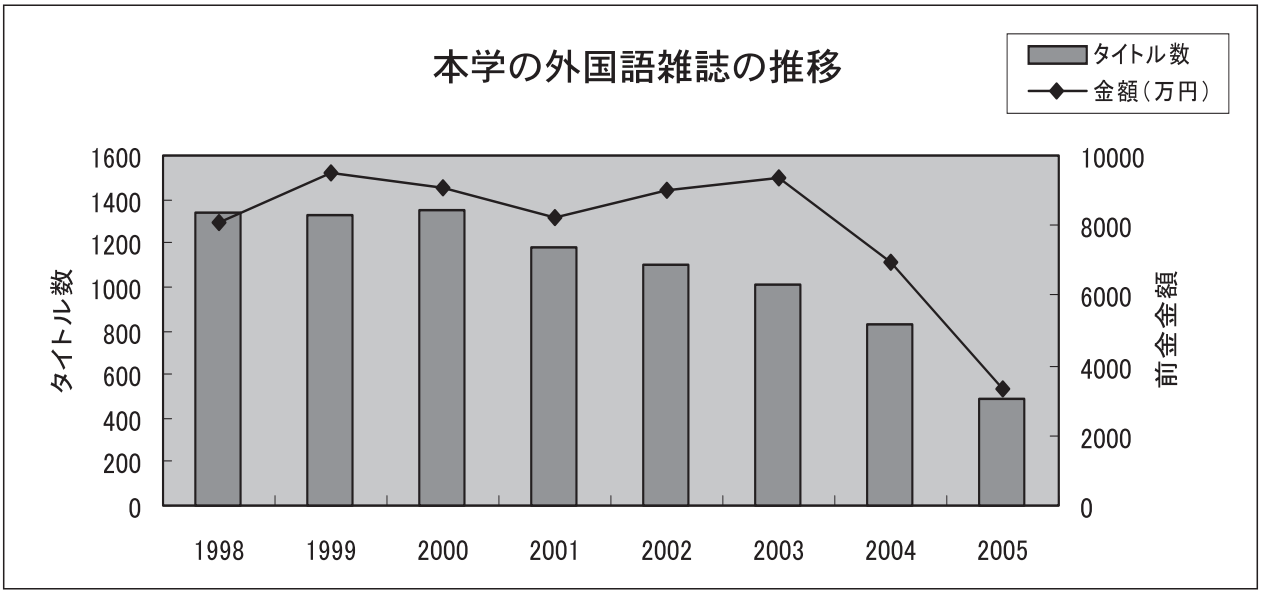


図２



な減少を招いたため，契約額はピーク時の約３分の１に落ち込む見込みです。これは，外国雑誌のほとんどが講座予算から成り立っているため，予算額の減少が大きな要因と想定されます。

次に電子ジャーナルですが，1990年代にパソコンやWWWが飛躍的に発展したことに伴い出版社もペーパーから電子体へ移行を始めました。当初は冊子の付録的な位置づけで無料提供されていましたが，2000年頃から有料化へとシフトしてきました。

これは，インターネット環境の十分な普及が背景にあることはもちろんですが，電子体での利便性を売り物に，売り上げ確保を目的として大手出版社がパッケージとして発売を始めたからです。文部科学省が予算化すると同時に，本学も2002年からエルゼビア社の電子ジャーナルパッケージ・サイエンスダイレクト等の導入を行ってきました。電子ジャーナルのパッケージ価格は，出版社が売り上げを維持するため，前年の冊子体と電子ジャーナルの合計相当額に値上がり分を加算した総トータルによって契約維持を可能とする仕組みが主流となっています。したがって，冊子体の購読を中止すれば，その分が電子ジャーナルの金額に跳ね返る形となり，本学を含め各大学で契約継続と予算の確保が問題となっています。

このように，冊子体を含む学術雑誌の減少に危機感を持った各大学では，電子ジャーナル経費を中央財源（共通経費）等から充当することによる利用可能学術雑誌の確保をはじめています。北信越地区の９大学においても，平成17年度には，一部冊子体の継続購読分を除き，９大学が中央財源から電子ジャーナル経費を捻出するようです。本学も学内の理解を得て，Nature, Science 等のコア雑誌のほか，エルゼビア，ブラックウェル，クルーワー，シュプリンガー各社のパッケージ購読経費を中央財源から予算化していただき，主要学術雑誌の減少に歯止めをかけることができました。

契約や利用条件面についての交渉は本来該当する大学が独自で行うものですが，一大学だけではとても対応しきれないため，国立大学図書館協会，日本医学図書館協会等が各出版社との交渉を行っています。その結果，本学においても導入しているエルゼビア社やシュプリンガー社等のほかOUP，ACM，CUP 等のパッケージとしての電子ジャーナルの導入が可能となりました。

2005年４月からは，エルゼビア社出版の電子ジャーナルの殆どのタイトル（約1500）が利用できるようになり，このことはエルゼビア社が外国雑誌最大手の位置づけや利用度の観点からすると非常に有益と考えられます。

電子ジャーナルは，今後も有料無料を問わず拡大し続けるものと予想されますが，一方，価格設定の仕組みも従前のような問題点を含みながら変化していくことが予想されます。電子ジャーナルの担当者会議の際，出席した出版社の方に質問できる機会があり『印刷体から電子体に移行が進むと，経費的には相対的にタイトル価格で計算した場合安くなるのではないか？』との質問をしたところ，現実的に印刷体と電子体の双方を共存させる情況では経費がかかり，価格の下落を見込むことは難しいとの返事でした。これはある１社の考えですが，多くの出版社も同様と考えられ，今後も全体として安くなることはないと思われます。電子ジャーナルを導入していくためには，価格面のほかに冊子体の保存性，電子体の利便性に対する配置スペース，アーカイブ等問題点も考慮した検討が必要になると思われます。

（情報管理課雑誌情報係）

電子ジャーナルの利用説明会を開催

附属図書館では，平成16年12月15日に「電子ジャーナル利用と学術コミュニケーションの変革」というテーマで電子ジャーナルの利用説明会を開催しました。会場の総合情報基盤センターのソフトウェア研修室には学内外から46名の参加者が集まりました。

電子ジャーナルの説明会は，過去に学内で数回開催されていますが，今回は富山大学の教職員・学生のほか，富山医科薬科大学，高岡短期大学からも参加がありました。さらに富山県図書館協会の大学・短大・高専部会の研修会としても開催され，県内の教育機関から幅広く参加者が集まるという大変意義深いものとなりました。

説明会は，学術出版の最大手エルゼビア社の電子ジャーナルサービスであるサイエンス・ダイレクトについて，認定トレーナーの瀧本まゆみ氏が講師を担当し，初心者向けに使い方の説明があり参加者各自によるパソコンを利用しての実習が行われました。

この後，附属図書館の木村情報サービス課長から，学術コミュニケーションの最近の動向として，SPARC，オープンアクセス，機関リポジトリについての報告を行いました。（3頁　参照）

ＳＣＯＰＵＳを導入

平成16年12月から，エルゼビア社のデータベース「ＳＣＯＰＵＳ（スコーパス）」のトライアルを行っていることについては「図書館速報 第18号」でお知らせしましたが，平成17年４月から導入を開始しますので，ご利用ください。

搭載データの特徴（エルゼビア社の紹介ページから）

- 世界4,000以上の出版社の14,000誌以上のジャーナルを収録。
- 2,700万件以上の抄録を搭載し，毎年110万件以上を追加。
- 抄録データは1966年まで遡ることができる。
- 参考文献は2005年までには10年分が搭載される予定。

機能の特徴

- 参考文献へのリンク（backward linking），引用論文へのリンク（forward linking），共通の参考文献を有する論文の検索機能を備える。
- 電子ジャーナルに簡単にリンクできる。

平成 17 年度新入生館内ツアー案内

新入生や初めて大学図書館を利用する方を対象として，実際に閲覧室や書庫を歩きながら，下記の日程で図書館サービスについてご案内します。

ビデオ，DVD，海外衛星放送案内，電動集密書架の使い方，各階の書架案内，ヘルン文庫の紹介，OPAC（資料検索）コーナー，マルチメディアコーナー，利用者持込ノートパソコンの接続サービス設備等です。

なお，OPAC やデータベースの使い方，文献複写サービス等については 6 月開始の「図書館利用説明会」で詳しく学べます。日程や内容は図書館ホームページや掲示板をご覧ください。

第 1 回　4／13（水）　13：20〜14：00
第 2 回　4／13（水）　15：20〜16：00
第 3 回　4／20（水）　13：20〜14：00
第 4 回　4／20（水）　15：20〜16：00
第 5 回　4／27（水）　13：20〜14：00
第 6 回　4／27（水）　15：20〜16：00

☆この他の日時でもグループでの申し込みならばご案内します。

☆図書館受付カウンターで申し込んでください。当日は開始 5 分前に本館 2 階ロビーにお越しください。

マルチメディアコーナー等を整備

附属図書館では，利用者へのサービス向上の一環として，次のような模様替えをはじめとした館内整備を進めています。

マルチメディアコーナー（1 階）を整備　▶

利用者が安心してパソコンを使用できるようセキュリティの強化を図るとともに，2 階に設置されていた留学生コーナーのパソコンもマルチメディアコーナーに集めました。

貴重資料の展示コーナー（1 階）を設置　▶

富山大学附属図書館では，ヘルン文庫をはじめ，川合文書，菊池文書等の貴重資料を所蔵しています。たくさんの図書館利用者にこれらのコレクションを知っていただくため，1 階ホールに展示ケースを設置し，貴重資料についての関係文献等を常設展示し，解説しています。

◀ 海外衛星放送視聴コーナー（1 階）を整備

受信できる局数を約40局から約70局へ増加する等の整備は実施済みであり，より多くの利用者が同時に視聴できるように環境を整備しました。

図書館関係会議

（平成16年９月～17年３月）

◎ 学内関係

・第３回附属図書館運営委員会
　期日　平成16年11月17日
　場所　附属図書館会議室

・第４回附属図書館運営委員会
　期日　平成17年３月10日
　場所　附属図書館会議室

◎ 学外関係

・北信越地区国立大学附属図書館事務部課長会議
　期日　平成16年11月25日
　場所　ホテルイン金沢

・国立大学図書館協議会シンポジウム（東地区）
　期日　平成16年12月７日～８日
　場所　東京学芸大学

平成16年度附属図書館運営委員会委員名簿

（平成16年４月１日現在）

館長	風巻紀彦	工学部	袋谷賢吉
人文学部	湯川純幸	工学部	竹越栄俊
人文学部	田村俊介	教養教育院	古田高士
教育学部	呉羽長	総合情報基盤センター	村井忠邦
教育学部	徳樗曜	事務部長	藤島隆
経済学部	萩野聡	情報管理課長	山田幸彦
経済学部	高山龍太郎	情報サービス課長	木村優
理学部	久保文夫		
理学部	渡邊了		

富山大学附属図書館報「書香」№45
2005年３月31日発行

編　集　富山大学書香編集委員会
発　行　富山大学附属図書館
　　富山市五福3190
　　電話 076-445-6891（ダイヤルイン）

ホームページ　http://www3.toyama-u.ac.jp/lib/